

平成28年度天皇杯受賞者受賞理由概要
園芸部門

高糖度みかんのブランド化で全国トップクラスの高単価を実現、産地拡大

○氏名又は名称 ながさき西海農業協同組合 させぼ地区かんきつ部会
(代表 古川 公彦)

○所在地 長崎県佐世保市

○出品財 経営(うんしゅうみかん等)

○受賞理由

・地域の概要

佐世保市は、長崎県の北部に位置し、南部の中山間地帯でかんきつ類や落葉果樹が、平坦地では水稻や施設野菜・花きが栽培されている。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

させぼ地区かんきつ部会は、部会員284名で、うんしゅうみかんの販売額27億円、県内シェア44%を持つ。糖度基準による「味っ子」等のブランド化を進め、ブランド率を高めるため、①「園地登録園制度」の導入、②シートマルチ栽培の導入と被覆率向上③佐世保市発祥の「させぼ温州」の栽培技術確立等に取り組んできた。その結果、ブランド率は約7割を超えて全国トップクラスの高単価を実現し、平成27年度の部会員1戸あたりの販売額は平成22年の148%、産地の栽培面積は平成20年の113%になっている。

・受賞者の特色

(1) 技術

- ① 部会全体の果実品質向上のため、園地ごとに登録を行い、統一した栽培管理で果実分析の審査に合格した園地のみかんだけをブランドとして出荷できる「園地登録園制度」を構築した。現在では、出荷可能な園地は全て登録され、品質データ等を生産者にフィードバックすることで栽培管理の改善を行い、技術の高位平準化を図っている。
- ② 露地みかんの糖度を上げる技術として平成元年からシートマルチ栽培を導入した。小規模基盤整備等によりマルチ被覆を容易にすることで部会のマルチ被覆率はほぼ100%を達成しており、JA部会単位での取組としては全国一である。
- ③ 高糖度で赤みが濃い「させぼ温州」は、生理落果しやすく栽培が難しいが、シートマルチ栽培等による高品質果実安定生産技術を確立し、県内に普及している。

(2) 経営

部会役員は30代・40代から選出し、部会活動を活性化させている。また、販売促進活動等を通じた消費者ニーズの把握や、有名果物専門店と共同での加工品開発、雇用労力確保のため生産者が共同で周年雇用するシステムの構築等を行っている。

・普及性と今後の発展方向

本取組は、全国のかんきつ産地からも注目され、発展の指針となるものである。今後は、更なる産地拡大のため、新規就農者や大規模経営者の確保・育成、雇用確保、労力削減に向けた新たな選果体制の構築等に積極的に取り組むこととしている。